

イタリア・ロンバルディア州の農業と協同組合

主事研究員 一瀬裕一郎

1 食がテーマのミラノ万博

2015年5月1日から10月31日まで、イタリアで、食をテーマにミラノ万国博覧会が開催された。食料不足の問題、食育の問題、遺伝子組換え作物の問題等、食に関する幅広いテーマで、約140か国がパビリオンを開設した。開催期間中にミラノ市内では様々な関連イベントも行われた。農中総研の研究者が、7月10日にみずほフィナンシャルグループ主催の食に関するセミナーに講師として招聘され、欧州の農業について講演した。日本企業の役員や現地法人関係者、イタリアの食品産業関係者らおよそ200人が同セミナーを聴講した。イタリアを訪れた機会を生かし、現地の農業事情についての理解を深めるため、ミラノが州都であるロンバルディア州の農村や協同組合を視察した。

2 ロンバルディア州の位置と概要

ロンバルディア州は、イタリア北西部に位

第1図 ロンバルディア州の位置



資料 筆者作成

置する(第1図)。国内最大の人口を抱える同州では、総人口の6分の1に当たる1,000万人ほどが暮らす。また、同州は経済規模も大きく、国内総生産の5分の1を占める。

3 社会的協同組合のワイナリー

ミラノの東50kmほどに位置するベルガモ近郊にCooperativa Cascina Clarabellaという社会的協同組合がある。10年ほど前に創設された同組合は、ワイナリーを事業の核として、宿泊施設も運営する。

同組合は多数の精神障がい者を雇用しており、授産施設としての機能も果たす。精神障がい者の職員は、熟成中のボトルの管理や宿泊施設の清掃等を担当する。健常者並みの賃金は難しいが、同組合は精神障がい者の職員向けの住居をワイナリーに隣接する場所に用意して、彼らの生活を^(注)支える。

4 中山間地域の酪農業協同組合

ミラノの東80kmほどに位置するブレシアは酪農が有名な地域で、およそ11,000の酪農経営がイタリアの牛乳生産量の80%を生産する。ブレシア近郊の山間地にCooperativa Alpe del Gardaという酪農協がある。

同組合はイタリア最大の湖・ガルダ湖畔に近い高台の村にある。村は過疎化が進み、村の存続に危機感を抱いた協同組合銀行OB等がチーズを製造する同組合を設立した。同組合は工場の建設資金を協同組合銀行からの融資



直売所に並んだチーズ



Agriturismo Ferdyの案内板



ミルクローリー

とイタリア政府からの助成金で工面した。

組合員が飼養する乳牛は、ブルーナ・アルピーナ・イタリアーナである。この牛は、カゼイン含有率がホルスタインよりも高く、チーズに適した牛乳を産出するという。

同組合はミルクローリーで組合員を巡回して集乳する。それを原料に同組合はチーズ等の製品を製造し、直売所で販売するほか、観光客で賑わうガルダ湖周辺のレストランやホテル等へも卸す。

(注)イタリアはバザーリア法を制定し、精神病院を廃止した。Cooperativa Cascina Clarabellaのような民間組織が精神障がい者の受け皿となっている。マンフレドニア(2008)等も参照。

5 アグリツーリズム

イタリアでは都市住民が農村で休暇を過ごすアグリツーリズムが盛んである。ベルガモ近郊に家族経営のAgriturismo Ferdyがある。同所には、自家製食材の料理を提供するレストランのほか、宿泊施設、スパ、馬場等の施設があり、搾乳や乗馬、菓子づくり等、食と農に関する様々な体験ができる。

6 イタリアからの示唆

日本は近年、地産地消や六次産業化等、農村の資源を使った地域活性化に取り組んでいる。イタリアはスローフードやアグリツーリズム等、食や農を通じた地域活性化の先進国である。イタリアでは地場の食材を伝統的な方法で加工し、チーズ等の地域に固有の高品質な食品を製造し、消費者の人気を集めている。地域や伝統を尊び質の高い製品を生み出すイタリアの姿勢は、六次産業化を推進する日本にとって示唆に富むものと思われる。

<主要参考資料>

・ジュリオ・マンフレドニア(2008)『人生、ここにあり!』(原題Si può fare、伊映画)

(いちのせ ゆういちろう)